

全員で取り組む地域づくり

全国から5千人を超える視察者が来訪する年もある串良町上小原の柳谷町内会。全国的な知名度を誇る「やねだん」の町内会長を務める豊重哲郎さんは、地域のリーダーとして数々の取り組みを行っています。「全員野球」を貫く地域づくりへの熱い想いを聞きました。

柳谷町内会
しよしげ ちつとろう 会長
豊重 哲郎



「再生」と「創生」 のための自主財源

約 25年前、55歳で柳谷町内会、通称「やねだん」の町内会長に就任して以来、豊重哲郎会長は「住民自治」「自主財源の確保」「還元」の3つの柱を掲げ、行政に頼りすぎない地域づくりを行ってきました。そのテーマは「再生&創生」。かつての地域のイベント等を復活させ、にぎわいを取り戻し、そのうえで新たな試みにチャレンジしていくというものでした。

地域の人が集まる「わくわく運動遊園」の整備や高校生クラブの結成、高齢者住宅への緊急警報装置の設置など、

焼酎造りの始まりは 高校生から

会長が行ってきた取り組みは数多くあります。その中でも、「教育から福祉まで幅広い分野において地域の人に『還元』するには財源確保が必須」と考える会長が行った自主財源確保の取り組みは、やねだんにとって非常に重要なポイントでした。

一つ目は、焼酎。きっかけはデンブンのさつまいも栽培を始めたことで、「さつまいもを作り、イチロー選手の試合を見に行こう」と高校生に呼びかけるとすぐに人手は集まりました。「孫や子どもが動けば大人も動く」との会長の考えどおり、子

どもから大人まで作業に加わりました。最初の年の売り上げは約35万円。予定どおり、イチロー選手を見に、福岡へ野球観戦に行きました。数年後、体力的にずっと続けるのは厳しいと思い、焼酎用のコガネセンガンに変更。これは栽培面積を減らしても、売り上げを増やす方法はないかと考え、町内会として出した答えでした。平成16年に完成した「焼酎やねだん」は17年経った今でも、町内会の大きな財源の基盤となっています。



「不の項目」から アイデアを

二つ目は、土着菌。家畜の臭いとそれに伴うハエの発生がU・Iターンを促進するうえでネックになると考え、その対策として取り組んだものです。会長自身も鹿児島大学の牧場へ住民30人と一緒に研

修に行くなどして勉強しながら計画を進めました。土着菌の発酵を促すために行うのは、毎日交代での攪拌作業。まさに住民総出の作業でした。完成した土着菌を家畜のえさや堆肥に混ぜたところ、臭いやハエの問題は解決。効果を実証された土着菌は、集落で作る焼酎用のさつまいも栽培にも活用しています。その後、町内会の財源を使い、土着菌の製造を行う「土着菌センター」を建設し、販売を開始しました。

会長が新たな取り組みを始める際に考えるのは「不の項目」。地域の現状において「不安」、「不満」、「不便」に思うことを挙げ、その解消に向けて動き出します。



▲やねだんで作る土着菌

「全員野球」で 取り組む

事業を取り組むうえでの基本方針は「全員野球」。「補欠は

市では、地域で行う活動をサポートしています。地域活動を行ううえで困りのことがあれば、お気軽にご相談ください。

市地域活力推進課 TEL 0994-31-1147



町内会員で整備したわくわく運動遊園